関西・大阪21世紀協会は、**「助成と顕彰」、「関西・大阪ブランドの発掘と発信」、「伝統の進化と創造」**の3つを事業の柱としています。ここではそのなかのいくつかをご報告します。

アートの殻を突き破る表現者たち

アートストリーム 2017

2017年10月20日～22日／大丸心斎橋店
主催：アートストリーム実行委員会
（大阪芸術大学、大阪府、大阪市、関西・大阪21世紀協会）

海外アーティストを含む総勢89名が出展

アートストリームは、関西を拠点に活躍するアーティストやクリエイターに発表の場と飛躍の機会を提供することを目的に、2003年から継続して開催している展覧会・即売会です。開会にあたり、実行委員長を務める当協会の佐々木洋三専務理事は、「アートストリームのロゴマークは、審査委員だった中崎宣弘さん（故人）のデザインで、関西・大阪からアジア・世界に向かってアートのウェーブを巻き起こそうという私たちの思いを表現したものです。今回は韓国文化院のご協力でソウルなどからのアーティスト（3名）や、在大阪ロシア連邦総領事館のご後援でロシアのアーティストの作品を展示。世界のアーティストが交流し、創造力を刺激しあい、大阪から新たなストリーム（潮流）を起こしていきたい」と挨拶。17回目となる今回は、総勢89名が個性あふれる作品を披露し、3,200人を超える来場者で賑わいました。

審査員の選考により、グランプリ（賞金30万円）は笛吹きの未市（ふえふきのみち）さん、奨励賞（賞金5万円）はイ・ウンジュさん（絵画）、新家智子さん（人形）、Funkotsu中島さん（クラフト）に贈呈されました。また、仕事の依頼や個展開催などを副賞とした「企業・ギャラリー賞」は、YOHEYYさん（絵画／関西・大阪21世紀協会賞）、キイロノハサミさん（ペーパークラフト／アーツサポート関西賞）ら25名（重複受賞者あり）に贈られ、来場者の投票によるオーディエンス賞には玄さん（絵画など）が選ばれました。

笛吹きの未市さんの「かかしの涙」は、親水性ポリマーを満たした透明アクリル樹脂ケースの中で、水生植物が根をはり、茎を伸ばして成長する様子を見せることで、人と自然の融合を表現した作品。「いつか、砂漠に親水性ポリマーを使った緑のグラデーションの培養土を敷きつめ、植物や農作物を育ててみたい」と壮大な夢を語っていました。また、3回目の参加というYOHEYYさんは、女性の顔などをモチーフに、ペン、アクリル、油絵具などの画材を駆使していきいきと描いた絵画を出品。「日々感じることや感情を、動きと色にこだわって表現している。女性の表情はよく変化するので描くのが好き」と制作の思いを語りました。

審査委員長の絹谷幸二氏（洋画家、文化功労者）は、受賞者発表後の講評で「アートストリームは大阪の行政、企業、学校など大阪をあげて応援している素晴らしい企画。若くて優秀な作品が山ほどあるので、来年以降もますますの発展が楽しみだ。アーティストの皆さんはこれから技術を磨くだけではなく、心を鍛えていってほしい。鍛えられた心は作品に鏡のように映り、さらによい創作活動ができる。そして、大阪から日本へ、世界に羽ばたいてほしい。これからの世界は皆さんの心のあり方にかかっている」と参加者を激励しました。

笛吹きの未市さんと作品「かかしの涙」（グランプリ）

YOHEYYさんと作品（関西・大阪21世紀協会賞）

審査員と受賞者の皆さん

南大阪・上町台地フォーラム

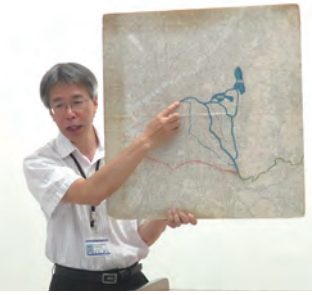
大和川のおいたち～付け替え工事

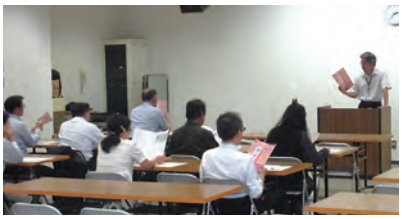
6月22日／柏原市立歴史資料館（大阪府柏原市）

柏原市立歴史資料館の安村俊史館長より、大和川の地理や付け替え（流路変更）工事について講義を受けました。

大和川は奈良県桜井市の北東部に端を発し、生駒山系と葛城山系の間を抜けて柏原市に入り、大阪市と堺市の境を西流して大阪湾に注ぐ延長68kmの一級河川です。安村館長は、宝永元（1704）年に付け替えられるまでは、会場の資料館の北西約1kmの地点で北上し、大阪城の付近で大川（淀川）に合流しており、流域の河内平野ではたびたび洪水が発生していたことなどを古地図を用いて説明されました。また、洪水に苦しむ農民の嘆願よりも付け替え後の新田開発による経済効果を重視した幕府の思惑や、14kmにおよぶ付け替え工事の内容、約8か月で完了できた背景について解説。付け替えにより、洪水が減少し、河内木綿の生産で富がもたらされたものの、新たな流域の北側で水不足をまねき、南側では排水不良による洪水を引き起こしたことや、河口付近の堺では川が運ぶ土砂によって港の機能が低下したことも紹介されました。

参加者は、付け替え工事の背景や影響の大きさを知る良い機会となりました。


安村俊史氏


講義風景

交流サロン 21cafe

情報発信と今後のSNSの可能性

実川香名美氏（株式会社RABBITS COMPANY＜ラビッツカンパニー＞代表取締役）

8月1日／中之島センタービル

SNS（Social Networking Service）とは、フェイスブック、ツイッター、インスタグラム、ライン、ブログなど、インターネット上で情報を受発信するツールを使って、社会的なつながりを持つことができるサービスです。これに登録・アクセスすることで、仲間内で情報を共有したり、不特定多数の人に向けて情報や意見を発信したり、受信した情報にコメントすることができます。

実川氏は、現在、日本でSNSを利用している人は7,200～7,400万人いるとし、その中にはツイッターを使って年間1,000万円以上稼いだ高校生や、インスタグラムを使って年間数百万円の広告収入を得ている主婦がいることを紹介。彼らのSNSがなぜ注目され、どのようにして収入を得るに至ったかについて解説されました。また、SNSをはじめるにあたって知っておきたいことや、SNSを商用ツールとして利用し、収益を上げるためには、どのような情報をどのように発信すればよいか、どのような年齢層にどのようなツールを使うと有効か、フォロワー（読者）が少ないと感じたときどうすればよいかなど、自身の体験談も交え、実例を示して詳しく解説されました。

実川香名美氏

講義風景

インターナショナル・ワークショップフェスティバル DOORS 11th

7月29日～8月2日、8月6日／大阪市立芸術創造館　旭区民センター、クレオ大阪南
8月26～27日／西宮市民会館
主催：IWF実行委員会（関西・大阪21世紀協会、アートサポート共同事業体）

多くの人が気軽に参加できるライブコミュニケーションの場を提供することを目的に、今年で11年目を迎えました。今回は西宮市と連携し、西宮ドアーズ実行委員会でも27講座を開講。大阪開催の98講座と合わせて125のワークショップを開催しました。西宮市民会館では開催の直前まで申し込みが途切れず、連日盛況となりました。

大阪開催では、週末の開催を望む声に応えて土曜日から開催したことや、週末に講座をかためるタイムスケジュールが好評で、98講座で延べ1,398名（1講座平均約14名）の参加者がありました。講座数の内訳は、アート・クラフト10、音楽7、身体表現・コミュニケーション18、伝統芸能10、健康・生活17、食2、踊り18、キッズプログラム16。受講者の比率は男性3：女性7で、30～50代が約60%を占めました。開講後のアンケートでは、受講者からは「自分一人では始めるきっかけを作ることができなかったので良かった」、「参加者同士の交流があって良かった」などの感想が寄せられ、約80%が「満足」と回答。開講者からは「問い合わせが増えた」、「レッスンを予約してくれた」、「公演の観客になってくれた」などの声が寄せられました。

ワークショップの様子